

2013 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	経済学部	身分	助教
氏名	南 映子		
NAME	MINAMI EIKO		

1. 研究課題

（和文）19世紀後半のメキシコにおける近代化と詩

（英文）The poetry and the modernization in the second half of the 19<sup>th</sup> century

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

この研究は、19世紀後半のメキシコ詩人たちが書いた詩を、当時メキシコで行われた、社会の諸制度や産業・経済面での「近代化」の諸相と照らし合わせて考察するものである。日本のスペイン語圏文学研究において、1870年代中ごろから活発になった詩の革新運動である「モデルニスモ」以降については注目されてきたが、それ以前の時期についてはほとんど知られていないのが現状である。その一方で、メキシコでは19世紀後半の詩人や作家たちの著作が1990年以降少しずつ復刊されており、さらに19世紀の資料はデジタル・アーカイブ化も進んでいるために研究環境が整ってきている。

本研究では、該当する時期に活躍した代表的な詩人たちの詩を概観した上で、まずは1850年前後に生まれ、共和政府が急速な世俗化政策を実施し実証主義を導入した大きな思想的変動の時期に知的形成を行った世代に注目を絞った。特に、医学生詩人マヌエル・アクーニャが代表作とされる“Ante un cadáver”「ある遺体の前で」（1873）について、同時代の新聞や雑誌を参照し、伝統的なカトリックの信仰と実証主義の間で生じた衝突と関連づけて考察した。また、アクーニャらの世代の師にあたり、第二共和政期に国民文化を新たに形成するべきだと提唱したイグナシオ・マヌエル・アルタミラーノの詩についても、1920年代にメキシコで起きたメキシコ国民文学の確立をめぐる議論と関連づけて考察した。

（英文）The research subject is to interpret the poems written by the Mexican poets in the second half of the 19<sup>th</sup> century, taking into consideration its relation with the modernization of the Mexican society. Particularly, this research has focused on “Ante un cadáver” (1873), a poem by Manuel Acuña, and the poems of Ignacio Manuel Altamirano.

